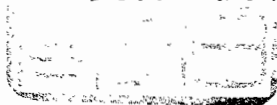


地域における安全志向型コミュニティ活動の可能性  
と地域文化の変容に関する研究



課題番号12610207

平成12年度～13年度科学研究費補助金 [基盤研究(C)(2)] 研究成果報告書

平成15年3月

研究代表者 浦野 正樹

(早稲田大学文学部教授)

研究組織

研究代表者：浦野正樹 文学部 教授

研究分担者：

店田広文 人間科学部 教授

臼井恒夫 人間科学部 助教授

山西優二 文学部 助教授

研究協力者：

菅磨志保 人と防災未来センター・研究員

浅野幸子 財団法人消費生活研究所・研究員

木村明子 防災・情報研究所・研究員

服部くみ恵 早稲田大学地域社会と危機管理研究所・協力研究者

下村恭広 早稲田大学文学部助手

小川裕文 東京都足立区職員

田中保三 早稲田大学講師・まち・コミュニケーション顧問

研究経費：

平成 12 年度 800 千円

平成 13 年度 700 千円

計 1500 千円

2000～2001（平成12～13）年度科学研究費補助金実績報告書

機関番号 32689

研究機関名 早稲田大学

研究種目 基盤研究C2

研究機関 平成12年度～13年度

課題番号 12610207

研究課題名

地域における安全志向型コミュニティ活動の可能性と地域文化の変容に関する研究

研究代表者

研究者番号 20160335 浦野正樹 文学部 教授

研究分担者

研究者番号 20197502 店田広文 人間科学部 教授

研究者番号 10193872 臼井恒夫 人間科学部 助教授

研究者番号 50210498 山西優二 文学部 助教授

## 研究実績の概要

本研究では、平成12～13年度にわたって、現代社会における生活条件の変化とく都市・地域文化の生成・変転＜まちづくりや地域活動等の集会的営為＞の実態把握を踏まえたうえで、脆弱化する＜地域対応力や危機管理のあり方＞を検証し、これらの地域力を支える地域文化の可能性と安心で安全な生活確保に向けての条件づくりについて研究を進めた。とくに、防災まちづくりや防災福祉コミュニティ、安全な地域環境を志向した地域おこしや活性化の取組み等の＜地域における安全志向型コミュニティ活動＞の実態とそうした活動の有効性についての調査を実施し、そうした活動の可能性について、＜コミュニティの歴史の変遷＞や一定の社会経済的構造条件下での＜地域文化の形成や変容＞と関わらせながら、検討を加えた。平成12年度は、阪神・淡路大震災や雲仙普賢岳噴火災害等の被災地域において、①人口構成や密集度、住宅特性を含めた社会経済的構造条件、②被害発生状況及び被害の社会的影響の連鎖、③地域住民による個別ないし集会的な対応行動、④その背景にある安全に対する意識や危機管理体制等の社会・文化的要因を、解明し整理することにより、いくつかの典型的な地域類型としてパターン化し、それぞれの地域類型における、被災から復旧・復興に至る社会過程を、事例に沿いながら典型的な展開過程としてモデル的に描き出した。

それとともに、防災まちづくりや防災福祉コミュニティ、安全な地域環境を志向した地域おこしや活性化の取組み等を対象にした（各都道府県を媒介にしての）資料収集と活動のカテゴリー化、及び、その中から大都市部では東京都、京都市、神戸市、地方中小都市では夕張市等の一部地域をとりあげての現地調査を実施した。これらの調査の中から、地域の社会経済的構造条件をふまえて、地域住民による集会的な活動のきっかけ、活動の組織化過程、活動維持条件についてモデル化すると同時に、活動の担い手になりうる人材育成のあり方やそれを支えている理念等についての知見を得た。

平成 13 年度は、平成 12 年度に進めた阪神・淡路大震災の被災地域調査（「地域類型ごとの被災から復旧に至る社会過程のモデル化」作業）を前提にしながら、個別地域（具体的には神戸市長田区御蔵地区）における社会過程を深く掘り下げ、災害復旧・復興過程で個々の業種や住民層の人たちに何が起こりどのような圧力が加かったのか、対抗力としてのまちづくりや地域活動等の集合的営為がどのように行われ影響を及ぼしたのかを、簡易型地域 GIS（地理情報システム）を活用して検討を進めた。結論として、災害時において住民はかなり長い期間共通の課題を抱えてきたように見られがちではあるが、とくに復旧・復興過程においては個々の業種や住民層の違いによってかなり早い段階から異なる圧力を受け、そこで個々の決断をせざるをえなかったこと、したがって、地域の再生力をはかるという点ではかなり早い段階での仕掛けが有効に機能しないと異なる圧力への対応で地域住民は分裂し異化作用が強まり、凝集力を喪失していくことが分かった。

また、平成 13 年度は、防災まちづくりや防災福祉コミュニティなど、＜地域における安全志向型コミュニティ活動＞の実態と活動の有効性についての調査を継続し、資料収集と活動のカテゴリー化、及び現地調査を実施した。こうした調査を通じて、それぞれの地域が、地域危険度を念頭においたうえで地域の危険要因を発見し、活用しうる資源を発掘していくプロセスを整理し、地域の学習プログラムとしてマニュアル化した。また、ある一定の地域の社会経済的構造条件を前提にしながら、地域住民による集合的な活動がどのように成立するのか、また活動の組織化過程や活動維持条件やさらにそうした活動を可能にし支えていくための制度的なしかけについても検討を加えた。さらに、外国人が混在している繁華街周辺における防災まちづくりという点で、日本語のわからない外国人を対象にしてどのような対策が必要で可能かについても検討を加えている。

## キーワード

安全志向型コミュニティ活動、防災まちづくり、防災福祉コミュニティ、地域文化の変容、地域対応力、危機管理、地域住民組織、再建過程

ABSTRACTS OF RESEARCH PROJECT, GRANT-IN-AID  
FOR SCIENTIFIC RESEARCH ( 2001 )

1. RESEARCH INSTITUTION NUMBER: 32689  
2. RESEARCH INSTITUTION: Waseda University  
3. CATEGORY: Grant-in-Aid for Scientific Research (C) (2)  
4. TERM OF PROJECT ( 2000 ~ 2001 )  
5. PROJECT NUMBER : 12610207  
6. TITLE OF PROJECT: Community Movements and their Cultural Backgrounds for Safe and Sustainable Community  
7. HEAD INVESTIGATOR REGISTERED NUMBER NAME INSTITUTION, DEPARTMENT, TITLE OF POSITION  
20160335 Masaki, Urano  
Waseda University, School of Letters, Arts and Sciences, Professor  
8. INVESTIGATORS REGISTERED NUMBER NAME INSTITUTION, DEPARTMENT, TITLE OF POSITION  
(1) 20197502 Hirofumi, Tanada Waseda University, School of Human Sciences, Professor  
(2) 10193872 Tuneso, Usui Waseda University, School of Human Sciences, Associate Professor  
(3) 50210498 Yuji, Yamanishi Waseda University, School of Letters, Arts and Sciences,  
Associate Professor

9. SUMMARY OF RESEARCH RESULTS

In this research, the actual condition of community movements for safe and sustainable community was investigated. Community movements in Tokyo, Kyoto, Kobe, and Yubari-city aiming at disaster-preventive, well-being, sustainable and vigorous local culture were taken up as targets of field studies. Moreover, investigation was simultaneously done about the conditions and the cultural backgrounds for such local activity being attained.

While the organizing processes and the backgrounds of the collective movements were modeled as several patterns, knowledge was acquired about the thought typically conceived by leaders of these movements.

Moreover, stricken areas, such as the Great Hanshin Earthquake and an eruption-calamity of Mt. Unzen Fugen, were investigated for measuring the potentiality of calamity-response and crisis management of the community. According to those factors listed below, they were patterned as some typical local types.

- (1) socioeconomic composition and density of population,
- (2) social damage resulted from calamity, and the chain of the social influences,
- (3) reaction of local residents and their collective activities,
- (4) consciousness of safety culture,
- (5) social system, such as crisis management system, etc.

The social process from right after the calamity to restoration and reconstruction stages in each type of local community was depicted in model. Furthermore, investigation at the Mikura-area of Nagata, Kobe-city was done in detail.

As a conclusion, local people were obliged to decide their strategy for family living in a quite early stage of restoration and reconstruction processes with receiving the pressures that vary with each type and position in the social stratification. Without the local collective efforts functioning

effectively and successfully in a quite early stage, a local resident's agreement for community reconstruction and future neighbourhood planning was becoming more and more difficult to make because of loss and disruption of social cohesion.

#### 10. KEY WORDS

- |                        |                         |                            |
|------------------------|-------------------------|----------------------------|
| (1) Disaster           | (2) Safety              | (3) Risk Management        |
| (4) Community Movement | (5) Community Culture   | (6) Reconstruction Process |
| (7) Community Welfare  | (8) Machizukuri Process |                            |

## 目 次

I.	地域社会の安全を志向するまちづくりの活動実態と可能性		
第1章	安全・安心をめざすまちづくり<防災まちづくり>-----浦野正樹	1-1	
第2章	安全・安心をめざすまちづくり----活動実態と可能性----浦野正樹	2-1	
補論1	地域防災活動促進のための学習プログラム・マニュアル---菅磨志保	補論1-1	
補論2	災害のリアリティと想像力の<拡張>-----浦野正樹	補論2-1	
II.	危機に瀕した地域社会と生活の安全・安心		
	----被災から生活の復旧復興・コミュニティ再建への道程----		
第3章	阪神・淡路大震災と地域社会の対応-----浦野正樹	3-1	
第4章	長田区御蔵地区の地域活動とそれを取り巻く支援のしくみ--浅野幸子	4-1	
第5章	長田区御蔵地区の震災後の活動と課題：現在の日常活動まで-木村明子	5-1	
第6章	台湾地震の復旧・復興過程と社会的課題-----木村明子・服部くみ恵	6-1	
補論3	震災を記憶することと地域活動としての<みくら5>への歩み		
	-----浦野正樹	補論3-1	
III.	地域の社会変動と危機への対応----地域社会の危機と再生戦略----		
第7章	夕張炭鉱の閉山とその後の地域社会の変貌-----下村恭広・小川裕文	7-1	
	資料		
資料1	安全を志向するまちづくりに向けて：まちづくりマニュアル		
	-----浦野正樹・菅磨志保	資料1-1	
資料2	書評「『災害都市の研究』	-----浦野正樹	資料2-1
資料3	「『災害弱者』と災害支援」	-----菅磨志保	資料3-1
資料4	Housing Problems after the Great Hanshin Awaji Earthquake： Co-Housing and Rebuilding the community	-----田中保三・木村明子	資料4-1

## I 地域社会の安全を志向するまちづくりの活動実態と可能性